

## 盛岡市材木町商店街

「よ市」から始まった街づくり。

### はじめに

いきなり私的な話になって申し訳ないのだが、私の夢は、テレビの番組制作に関わることである。しかも、地域に根ざした思いっきりローカルな視点の番組をつくりたい。そこで、番組の「ネタ」として候補にあがるのが商店街である。

私は、高校時代に放送委員会に所属し、番組制作にも関わってきたのだが、商店街はそのときから重要テーマだった。商店街を取り上げた主な理由は、次に挙げる3つだった。まず、商店街が生活空間の一部だということ。これは私が商店街が身近にある街に育ったせいもあるかもしれない。自分の周りの生活する場所のことを知りたいと思わない人のほうが珍しいだろう。2つ目は、商店街ならではの面白い取り組みを行っていること。今の商店街は、店を構えるだけではやっていけないから、たいてい、その商店街独自の「イベント」的なものを持っている。それを特集することは、単純に面白い。祭りに行って楽しいと思うのと同じだ。そして3つ目は、商店街にいる人々が魅力的だということ。活性化している商店街には、必ずといっていいほど、すごい人がいるものだ。その人に話を聞くと、

どん底の状態だった商店街が、どのような経緯をたどって今の状態になったのかなど、とても面白く話してくれる。商店街の改革を行った人物の話は、実に魅力的だ。NHKのプロジェクトXのような話を聞けると考えてもらえればよいだろう。つまり商店街は、生活空間 イベント 人、の3つの魅力を兼ね備えた、実に文化的で魅力的な場所なのである。その商店街が、今、苦しんでいる。大型ショッピングセンターの進出に伴う客足の減少や、時代に合わなくなった商店街などが増え、商店街の復興を叫ぶ声が昨今増えてきた。街づくりのシンポジウムも様々なところで開かれているし、商店街同士で情報交換や勉強会も行っているようだ。私は、商店街について調査しだした当初、「大型ショッピングセンターが進出するから商店街が衰退するのだ。住民は、商店街の意義を見直し、もっと活性化に協力していくべきだ」という、なんとも一辺倒な主張をしていたのだが、この授業を受け持っている浦野先生の指摘や、様々な場所での議論を通して、それでは何の解決にもならないことを学んだ。私たち消費者のニーズは、「文化の保存」といったような抽象的なものでは動きにくいし、大型ショッピングセンターが便利なのは明白で、客が集まるのももっともなことだったからだ。これに気が付いてからも、私は、経済的アプローチでどうにか大型ショッピングセンターと商店街との関係を緩和できないか、とか、商店街はもっとマーケティングに力を入れるべきだとか、様々な奔放に意見してみたのだが、私の少なすぎる研究量で太刀打ちできる問題ではなかった。

では、どうすればいいのか。商店街を活性化させる方法はないのか。そう考えて、ふ

と立ち戻ったのが、番組制作をしていた頃、商店街について考えた視点だった。

確かに商店街は、経済的に難しいところも抱えていたり、ハード面での問題を抱えていたり、素人には難しい問題も抱えている。しかし、今までの調査を振り返ってみると、成功している魅力的な商店街というのは、経済的に成功しているとかそういう部分のみで語れるものではないのだ。元気のある商店街は、必ずどこかで傑出している。つまり独自性をもっている商店街だったと思直したのだ。

独自性の例を挙げると、まず、高円寺の商店街では、例年、阿波踊りの祭りを開いている。商店街の店主のほとんどが、阿波踊りの連長だという。私が高円寺パル商店街を訪れたのは8月の初めだったのだが、そのときも、3週間後に迫る祭りに向けて、振興組合の方々をはじめ、商店街全体の雰囲気盛り上がっていた。高円寺の商店街で阿波踊りが始まったのは、昭和32年だそうだ。夏枯れで売り上げの少ない8月末に、なんとか客足を呼び戻せないものかと考え出されたイベントだ。このイベントには、1万人近い踊り手が参加し、100万人以上の観客が訪れる。店主が、「自分の店のことより、阿波踊り」といってしまうほどに、魅力的な祭りだ。その祭りを商店街が中心となって進めていることの誇り、そして、それを最高に楽しむという姿勢が、商店街全体の活気を生み出しているのだろうと感じた。

今挙げた高円寺のように、魅力的な商店街には、色がある。大学近くの早稲田の商店街は、環境への配慮が特色といえるだろうか。いや、もしかすれば、「商売精神」のほうが早稲田の商店街の特色といえるかもしれない。

これから紹介する盛岡市材木町商店街は、宮沢賢治を自らの色とした商店街だ。

私は、商店街について難しく考えすぎていたのかもしれない。経済的に考えなくてはいけないとか、消費者の意識を変えなければならないとか、そういったことにとらわれすぎていた。しかし、商店街の根本は、「自分たちが生活する場である」というところにある。自分たちがどんな場所に暮らしたいのか、どんな雰囲気の中で生活していきたいのか、そんな人間としての欲求を実現できる場所として商店街を捉えることから、商店街の活性化の糸口が見えてくるのではないかと思う。

商店街の改革を支えてきたリーダーたちには、改革をするにあたっての強い理想があった。商店街を変える原動力は、いつも、「自分たちはどんな街に生活したいのか」という理想を描くところから始まるのかもしれない。その理想を実現しようとするとき、きっと経済の流れをも変えてしまう力が働くのだと思う。商店街をどうしようか考えるとき、私たちはどんな生活を理想とするのか描かなければならない。自分の街を考えると、自分たちの生活をどうしていきたいのか考えるのと同じなのだ。

授業の一環で向島を訪れたとき、街を案内してくれた徳永暢夫氏は、私にこう言った。「街づくりには、3人いればいい。1人は、でかい理想を言えるバカなやつ。そして、もう1人は実行力のあるやつ。そして、最後に調整役がいれば、街づくりはできる。」

経済的にどうするのか、人を同集めるのか、難しいことを考え始める前に、まず自分

私たちはどんな街を作っていきたいのか、どんな街に住みたいのか、その理想を議論しなければならないのではないかと。社会の流れにあわせて商店街をどうするのか考えるのではなく、自分たちは、どうしたいのか。そこからどんな独自性を生み出していけばいいのかを考えるのが先なのだ。でなければ、商店街の魅力はなくなってしまう。商店街の魅力は、自分たちの生活空間の一部であるということ、そして、そこには魅力的な人々が理想を持って生活していることにあるのだから。

これから、私が夏に取材した盛岡市の材木町商店街のレポートを紹介することにしよう。盛岡を紹介するガイドブックにも度々登場する商店街で、とても雰囲気の良い場所だ。その魅力をレポートできたらと思う。

## 材木町商店街レポート

### 材木町商店街

材木町商店街は、盛岡駅から徒歩10分ほどのところに位置する430mほどの商店街だ。横目には、北上川が流れ、川沿いからは岩手山も見える。そんな盛岡の絶景ポイントにある材木町商店街の愛称は「い～はと～ぶアベニュー材木町」。和風感の漂う町並みが続く中、舗道には、宮沢賢治をテーマにしたモニュメントが飾られ、賢治の世界をかもしだすことに成功している。材木町商店街は、地元にも密着した商店街であり、全国の観光客にも愛される商店街なのだ。だが、今、こうして愛されている材木町商店街も、以前は3K（暗い・汚い・危険）商店街と言われていた。このレポートでは、材木町商店街が、どのようにして3K商店街から脱出したのかを報告していくこととする。



### 3K脱出のポイント

材木町商店街の改革ポイントを大きく分けると、以下の3つになる。

- 1．路上買い物市「よ市」の開催
- 2．公共駐車場・コミュニティ道路事業
- 3．コンサルタントなしの改革

それでは、詳しく探っていくことにしよう。

### 歴史

まずは、歴史をざっと振り返っておこう。材木町商店街ができたのは、江戸時代。藩政時代から400年の歴史を持ち、盛岡市ではもっとも古いものとなっている。南部氏によって盛岡城下の街づくりが始められた頃からの北上川沿いの古い一筋の町並みが材木

町商店街の原型で、南部氏の盛岡築城の開始された元禄元年（1592年）に造成された。南部藩政時代は、木場の材木商を中心に商人町を形成し、北方の農村を開いてとする商業地区として活況を呈した。材木町という名前は、北上川を利用した貯木場がこの地に位置したことに由来する。

明治後期から大正期にかけては、北方郊外に工兵隊と騎兵旅団が設置され、商業繁栄を支えた。このとき、材木町商店街は、北大通り商店街として発展した。

だが、この繁栄も戦前までとなる。戦後は、大型店を核に、立地条件にも恵まれた大通り・肴町の両商店街が発展する。それに伴い、材木町商店街の地位は低下。材木町商店街には、大型店もなければ歩道もなく、狭い道路のままだったのだ。こうして、材木町商店街は、舗道もなく狭い道路のまま、交通環境の変化と車社会に対応する対策が遅れ、商店街としての地盤が沈下した。

《資料提供：材木町商店街振興組合「 商人街・材木町の歴史」》

### 3K 商店街から脱出したい！

盛岡市内の道路整備が着々と進む中、材木町商店街はまだ取り残されていた。昭和40年代に盛岡バイパスができてからというもの、国道4号線のメインストリートとしてにぎわっていた材木町通りは、閑散としていた。商店街が立地していた国道の変更により、通行量が激減し、商店街の衰退が進んでいたのだ。その当時の街並みは旧国道のまま。舗装は悪く道幅はようやく車が離合できる程度だった。話を伺った、盛岡市材木町商店街 振興組合理事事務局長 野崎好治さんは、「昭和51年当時、材木町商店街の3Kレベルは、最高潮だった」と話す。「このままでは、材木町は本当に破滅する」という危機感が募った。そこで3Kからの再生と近代化をはかるため、商店街の再開発を目的とした盛岡初の振興組合を昭和41年（1966年）に設立する。

当初の計画は、自主開発で各店が改築の際に2mセットバックして、歩道を設置するというものだった。狭いと感じていた道路を拡張しようという、大工事計画。しかし、各店の都合で足並みが揃わず、一部の協力実施、延々と進まない状況が続いた。工事への意見は、真っ二つに割れてしまったのだ。総論賛否・各論反対があり、事業を進められる状況ではなかった。

### 「よ市」登場！！

その打開を図るために考え出されたのが、よ市だった。共同事業による共同意識の強化を目的として、販売促進事業の歩行者天国の路上買い物位置 材木町よ市 を企画、実施することにしたのだ。昭和49年（1974年）のことだった。

通常、歩行者天国にするのには大変な苦労がいるが、よ市開催にあたっては、以外にすんなりといったという。野崎さんは「まあ、警察もかわいそうだとおもったのかねえ」なんて話してくれた。そして、この「よ市」で、共同意識を図る計画は、見事に成功す

る。その要因を、同振興組合 前専務理事・理事相談役の岩淵晃行さんは、「コンサルタントの力に頼らず、商店街の若い集で企画・実行したからじゃないかな」と話している。岩淵さん自身も、よ市を企画・運営に携わっている。コンサルタントという、ある種、外部の人間の力に頼らず、自分たちで話し合いを進めるうちに、「自分たちの商店街なんだ。どうにかしたい」という気持ちも芽生えてきたという。

こうして、企画されたよ市は、好評を博す。販売促進事業を通して連帯意識の強化を図ろうとしたのが、以後、充実発展し、今年は 32 年目を迎えている。

「よ市」は 4 月～11 月まで毎週土曜日に開催される、路上買い物市。農産物主体の 100 店近い出店と平均一万人の人出でにぎわう。経済・宣伝効果が抜群だという声が高い。よ市の「よ」には、「与・余・夜」の 3 つの意味がある。ただ、「夜」というのは現在は微妙。というのも、今の開催時間は、15 時から 19 時までだからだ。はじめた当時は、昼間に客が来ないため、夜まで店を出していたという話を聞いた。また、材木町商店街の裏手にある酒買地蔵尊大祭に合わせた酒買地蔵祭礼市、目玉市、お盆市など季節毎や地元の祭礼にからめたイベントを実施するなどの工夫により、マンネリ化の防止に努めている。なお、雨風などの悪天候でも定刻 15 時には開催しており、顧客の信頼度が高い。こうして、よ市で共同意識を高め、さらに経済効果も得て自信もよみがえった。よ市をきっかけに結束を固くした材木町商店街は、いよいよハード面の改革に取り組んでいくこととなる。よ市は、まさに、材木町活性化の立役者なのだ。



その日の朝に採ってきた、新鮮な野菜。「お客さんとのコミュニケーションを取れるのが魅力。」と店主の佐々木さん。料理の仕方や、昔からの栄養知識を伝授。仲良くなると、おまけの得点も。新鮮な野菜とコミュニケーション、そして「おまけ」がリピート客を増やす要因だろうか。

### 駐車場の設置

昭和 52 年（1979 年）には、50 台の共同駐車場を設置した。組合員の積極的な出資協力と国の高度化資金を利用して設置が実現したもので、来街客に向けて提供。近年、利用客の増加で利益が上がっており、商店街の活性化資金として活用している。また共同駐車場自体の資産価値もあがり、財政基盤の強化に重要な役割を果たしている。

よ市に加え、この共同駐車場の設置も、商店街に活気を取り戻させた。

### 商店街改造事業計画

こうして波に乗った材木町商店街は、昭和 56 年（1981 年）に商店街改造事業計画を策定する。テーマは『潤いと親しみのある街』。この整備計画には 4 つの軸がある。

親しみと対話のある街  
城下町の風情を生かした和風感のある街づくり  
恵まれた景観を生かした街づくり  
ゆっくり買い物ができる街づくり

この計画から実施にいたるまで、6年にもおよぶ、組合役人と組合・町内関係者の内部間と行政との討議・協議が繰り返された。

この商店街の整備事業は、具体的には以下の3つの事業を合わせたものである。ちなみに平成元年に着工、平成5年10月に道路整備事業が竣工、完成した。

### 3つの事業とは??

#### 商店街改造事業

各店が建物を各3mセットバックして、店舗の改築・改造をした。その際、和風感の街並みに合わせて新しい店づくりを実施。和風を取り入れた形と、色は、白・灰・黒・茶を使うことを基本に協定。セットバックについては、地元も積極的に協力し97%を超える実績をあげる。また、特筆すべき点は、工事費の約半分を各店で負担したこと。市が関わる工事は、普通、市が全額負担で行うものなのだそう。しかし、材木町商店街の場合は、工事費の約半分を各店が負担している。この点から、商店街が抱えていた危機感の大きさや事業を行ううえでの共同意識が強かったということが伺える。各店が3mセットバックするのにかかる費用は3米約100万円。各店はその半額にあたる50万円を負担した。市が50万、各店が市に50万寄付してつくったということで、商店街の間では、100万円ロードとも呼ばれているそう。また、新築改築は自主事業ということになっていて、改造に伴う移転・休業への保障はなかった。保障なしでの工事。岩淵さんは「みんなの意思疎通があってこそなんだよ。」と、繰り返し話してくださった。

#### 街づくりの成果

商店街が一丸となって取り組んだ街の景観作り。材木町商店街は、今までに3つの賞を受賞している。

- ・平成6年：建設省『手作り郷土賞』 盛岡市『都景観賞』
- ・平成14年：盛岡市『都市総合景観賞』

#### コミュニティ道路整備事業

材木町要望に合致した車歩道整備の公共事業で盛岡市が導入、実施。片側3mのセットバックにより、道路幅を8mから14メートルに拡幅し、材木町のイメージに合わせた歩行者に優しい歩車共存道路として施工された。

商店街のコミュニティ道路の二車線対面通行方式は、全国初の特例。画期的な試みで、材木町商店街進行組合 現理事相談役の岩淵晃行さんは、「商店街道路、大革命とってもいいんじゃないか。これが一番の自慢だし、材木町が全国から注目されている要因だ」と語る。この道路の特徴は、車道が蛇行していることや、車止めがあるということ。歩行者の安全に配慮したつくりになっており、車と歩行者が共存する街を目指した。総事業費は、約 10 億円。地元負担は 3 億 4 千万円。

### 商店街共同施設事業

材木町商店街の歩道の幅は、2.5m～5m。この、歩道の狭いところと広いところを生かせないかと考え、街来客が休める場所をつくることを考案。歩道の広がっている場所、6箇所に座を設けた。この座は、宮沢賢治の世界をイメージしたもの。それぞれにあげていくと、賢治のブロンズ像と岩石のある石座、賢治の書いた童話『セロ引きのゴージュ』からイメージしたチェロの音座、宇宙や星をテーマにした星座（ほしざ）シルクロードをテーマにした絹座、草花の花壇がある花座、賢治の詩版がある詩座（うたざ）の6つだ。街来客は、ここで自由に休むことができる。これも、振興組合で考えたアイデア。事業費は5千万円で、平成5年の3月に完成した。

### なぜ宮沢賢治なのか

まず、材木町商店街に賢治にゆかりのある店があることがあげられるだろう。たとえば、『注文の多い料理店』を出版した光原社や、蓄音機を購入したという村定楽器店、そして賢治が書籍購入のためにたびたび利用した東山堂などで。（賢治がつけていた本代を払いに来たという話が残っている）また、賢治自身が、材木町商店街に肥料の売り込みに扱う商店を訪れた記録もある。

しかし、こういった店がありながら、材木町商店街のイメージは、最初から賢治に決まっていたわけではなかった。「材木町のテーマを決めよう」ということになったとき、振興組合の話し合いでは、賢治のほかに2人、盛岡ゆかりの人名があがったのだ。一人は、版画家の棟方志功。もう一人は、詩人の石川啄木である。棟方は、青森の出身ということで取り下げられたのだが、啄木と賢治ではなかなかもめたようだ。決め手となったのは、両者のイメージ。振興組合 理事事務局長の野崎さんは、「啄木も優れた詩人だったので迷った。だけど、彼は「はたらけどはたらけど 猶わが生活（くらし）楽にならざり ぢっと手を見る」という俳句を残しているでしょ？商人の街・材木町としては、少し悲しかったんだよね。」と茶目つぱりに話してくれた。一方、宮沢賢治は、農学校の教師でありながら童話作家だったということもあって、多方面で才能を開花させていた印象が強かった。材木町商店街も、多角的なサービスを提供していきたいということで、イメージが一致。材木町商店街のテーマが宮沢賢治に決まったそうだ。

### 宮沢賢治の効果

宮沢賢治の世界をイメージしたことによって、材木町商店街は、マスコミに取り上げられる機会が増加。全国からの注目度も高くなり、視察に来る人も絶えない。今では、いわてを紹介するガイドマップに「賢治の街・材木町商店街」と紹介されるほどになり。賢治の世界をイメージしたモニュメントによって、商店街全体に見どころができたといえる。宮沢賢治生誕 100 周年の時には、たくさんの観光客が材木町商店街を訪れた。

また、観光客だけではなく、今までの固定客が、散歩のついでに多くの店を見るようになったのも利点につながったようだ。加えて、ハンドクラフトといった個性的な専門店が多いのも功を奏している。文化のある街としてリピート客が増えたのが相乗効果につながった。

### 改革について

この改革事業は、『自分たちの街をつぶしたくない、自身を持って紹介できる街にしていこう』という意識が高め、商店街の結束を固くするものだった。振興組合 元専務理事・現理事相談役の岩淵さんが繰り返し語るのは「全国まれにみる道路改革、そして賢治のモニュメントの案も、すべて自分たちで計画したもの。外部の力に頼りすぎちゃダメなんだよ。よ市がこうして成功しているのも、街並みがよくなってるのも、各店が当事者になってくれるからだ。」ということ。

確かに、よ市の成功も、3mのセットバックも、和風感を出す店づくりも、各店の協力はなしでは成り立たない。街づくり成功の秘訣は、「まずは、自分たちでやること」なのだと感じた。

### 終わりに

高校時代まで身近に見てきた材木町商店街をテーマにした。私は、10年以上も盛岡で生活していたが、材木町商店街がかつては3K商店街だったことも、それをよ市をきっかけに打開していったことも、何も知らなかった。改めて、商店街でがんばる人たちのパワーを感じた。材木町商店街のみなさん、本当にどうもありがとうございました！

(参考・協力) 盛岡市材木町商店街振興組合

(写真・文責) 松田香織里

### 全体を通して

街づくりに必要なもの。私は、経済学だと思った。でも、それは、街づくりに一番大切なものではなかった。街づくりをするのに一番重要なのは、「自分の街に対する想い」だ。街づくりに必要なもの。それは、理想と、行動力と、調整。そして、学問的な裏づけもできると心強い。私は、まだ(?)大学1年生だ。自分はどんな街づくりが提案できるのか。これから勝負だと思っている。課題と目標が見えた1年だった。



昭和 41 年 (1966)	商店街の再開発を目的に法人化、振興組合を設立。(盛岡市第 1 号)
昭和 49 年 (1974) 石油ショック	路上買い物市「よ市」を企画実施。9 - 10 月毎週土曜日夕方開催。以後、翌年より 4 - 11 の期間、毎週土曜日恒例開催。
昭和 54 年 (1979)	特定高度化事業導入、商店街共同駐車場を設置。 事業費 1 億 6 千万円。駐車台数 45 台
昭和 56 年 (1981) 旭橋完成	道路拡幅、セットバックによる店舗改造、3m の歩道整備を基本とする材木町商店街改造事業計画書策定(県、市、組合)
昭和 57 年 (1982) 東北新幹線開通	3m セットバックの確認と事業同意書取り付け作業を進める。 道路整備に公共事業導入を検討模索。
昭和 61 年 (1986)	環境整備基本計画書策定。材木町裏北上川低水護岸整備工事着工。
昭和 62 年 (1987)	環境整備中期計画策定。コミュニティ道路整備事業を市に陳情。 公共事業導入による材木町地区環境整備の事業化を目的に建設省、市、組合 3 社でプロジェクトチーム設置し、検討協議を進める。
昭和 63 年 (1988) バブル景気 地価の異常に急騰	チームによる材木町地区環境整備計画の中間報告をもとに、事業計画を確定。事業実施について、建設省工事事務所、市 5 部 8 課、組合のプロジェクト・ワークチームによる具体的な検討協議を進める。整備基本計画と 2 車線相互通行のコミュニティ道路基本計画を策定。事業説明会、懇談会、協議会を度々開催し、理解と協力を要請。事業実施の承認取り付けを推進し、道路整備の公共事業を申請。
平成 1 年 (1989)	コミュニティ道路整備事業着工。商店街整備事業本格化、店舗改造セットバックと歩道川地買収進む。護岸石組改修工事(建設省)完了。

平成 3 年 (1991)	道路整備工事、店舗改造工事進展。護岸基礎工事(建設省)完了。
平成 4 年 (1992)	事業への協力者が急増し、店舗改造、道路整備工事急ピッチで進む。 セットバック実施が 9 割を超える、低水護岸整備舗装工事(市)着工。商店街共同施設事業(組合・県・市・高度化事業)により、歩道 6ヶ所の座に宮沢賢治の世界をテーマにしたオブジェを配し、各所に案内板、標識、街頭等を設置。事業費 5 千 100 万円。
平成 5 年 (1993) 新夕顔瀬橋完成 世界アルペン盛岡・雫石開催	コミュニティ道路完成、10 月 7 日開通式及び商店街整備事業完成記念式典・祝賀会を盛大に開催。『ウッディライフ材木町展』開催。全国商店街から選出の第 17 回『産経商業賞』受賞。
平成 6 年 (1994) バブル景気崩壊 円高不況	材木町コミュニティ道路が、建設省『てづくり郷土賞』を受賞。宮沢賢治のオブジェ等が、盛岡市『都市景観賞』創作賞を受賞。両賞記念碑、商店街南北 2ヶ所に道しるべ標識設置。
平成 7 年 (1995) 住専、金融破たん	岩手県中小企業大会において、当組合が、県知事表彰を受ける。共同駐車上に公衆便所設置。修景施設の植栽プランター設置。
平成 8 年 (1996)	組合設立 30 周年記念式典・祝賀会を盛大に開催。
平成 9 年 (1997)	通産省の全国『元気のある商店街 100』に選定された。 ふくろうのオブジェをつけた《時計塔》設置。
平成 10 年 (1998)	魅力ある商店街整備補助事業を活用し、事業費約 1 億 2 千万円で商店街共同駐車場に 36 台の EV 式立体駐車設備を増設。(11 月 2 月に完成)
平成 14 年 (2002)	平成 14 年度盛岡市『都市景観賞』総合賞受賞。

表 1 (盛岡資材木町商店街振興組合 提供)